



与板十五夜まつり鼓笛隊パレードより。リズム感ある素晴らしい演奏でした。

広報よいた

2000. 10月号 No.412

CONTENTS (目次)

与板十五夜まつり	2・3
平成11年度決算	4・5
フォト・トピックス	8・9
お知らせ	12~14
直江氏三代の拠点	16・17
与板この人	18
生涯学習コーナー	19
くらしのカレンダー	20

●与板町版画クラブ●



流星 I

山崎 仲次郎(下丁)

さあ!あなたもチャレンジ

次の問題の答えを
はがきに書いてお送りください。
抽選で5名の方に図書券を差し上げます。

〈問題1〉盛大に終わった与板十五夜まつり。暑さに負けず元気よく練り歩いた創作みこしは〇基?

〈問題2〉谷川連峰清水峠をめざして出発した町民登山。さて、今年で第〇回目?

〈問題3〉9月23~24日に与板町で開催された「第8回全国削ろう会in与板」。全国より来場された人は2日間で〇人?

応募方法:はがきに答えと住所(町内名で可)、氏名、年齢をご記入の上、次の宛先へお送りください。なお、広報へのご意見、ご要望なども書き添えていただければ幸いです。

応募先:〒940-2492(役場専用)
与板町役場 総務課「広報クイズ」係

締め切り:10月25日(当日消印有効)

いよいよ秋の行楽シーズンがやってきました。紅葉狩り、きのこ採りなど実りを求めて外出される方も多いのではないかでしょうか。▼町の大イベント「与板十五夜まつり」。大勢の人が参加しての楽しいお祭りでした。民謡流しを踊る、みこしを担ぐ、屋台を引く、それぞれにいきいきとした笑顔が印象的で、やっぱりお祭りは参加して楽しむのが一番なと思いました。▼先日まで開催されていたシドニーオリンピック。様々な種目選手の活躍にテレビに釘づけになった方も多かったのではないでしょうか。特に印象的だったのが女子選手の活躍でした。なかでも一番感動したのはマラソンで金メダルをとった高橋尚子選手のインタビューの中に「明日の朝は、何事もなかったようにまた走っているかもしれません。走ることが好きですか……。」という言葉でした。いつでも没頭できる「好きなもの、好きなこと」を皆さんは持っていますか?

(広報担当 石黒)

●文協美術部●



十五夜まつり

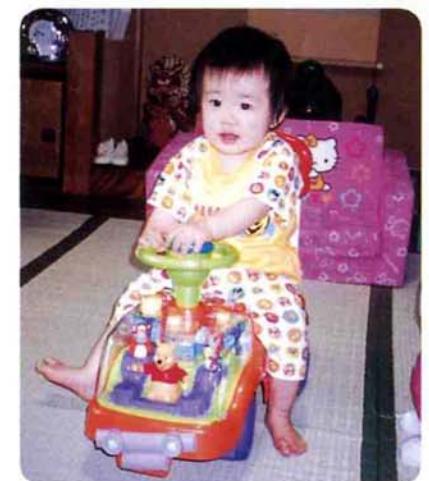
長谷川 音松(下丁)

佐久間 瑞奈さん

《堤下》

父 文彦さん
母 亜裕美

わが家のアーバル



瑞奈です。

8月で1歳になりました。
今、ハマっているのはお散歩です。
まだヨコヨコ歩きだけど、
お気に入りのくつをはいて歩いて
います。
とっても楽しい!
お友達がほしいので、
見かけたら声をかけてね。

編集後記



踊って、笑って、見て聞いて エキ^祭ティングな3日間



やっぱり祭りには太鼓だね

ワッショイ！300人の松明走行



さあ、リズムにのって？



おサルも登場！



9月13日の民謡流しで幕をあけた与板十五夜まつり。数日前までの秋めいた天候とはうつてかわって、夏が戻って来たような好天に恵まれ大にぎわいのお祭りでした。民謡流しでは艶やかな浴衣に混じって、ユニークなコスチュームも見られ、とても楽しそう。14日のお祭り広場には大勢の子供たちが集まり大きわい、体験コーナーやゲームに走り回っていました。また、スタンプラリーも大好評でながくい行列ができていました。創作みこしは、昨年よりも参加が増え、今年も審査を迷わせるような力作揃い。真夏を思わせるような暑さの中、19基のみこしが縦横無尽に町を練り歩きました。そしてなんと言ってもメインは登り屋台。今年も勇壮にダイナミックに屋台坂を登り、お祭りをしめくくってくれました。



チビッ子に技の伝承



華麗なバトンとドリル演奏



年々レベルが高くなる創作みこし



うわあ～落ちる！！



大人気！パーフェクトイレブン



よっしゃあひっぱれー！



大きなピザに大行列



「削ろう会」in与板開催！

9月23・24日に全国の大工さんや鍛冶職人等の技術向上、交流を目的に「第8回全国削ろう会 in 与板」が町民体育館で開催されました。

全国より延べ2日間でおよそ1,500人の来場者がありました。

1日目は与板の打ち刃物の工場見学や「村のかじや」による実演、2日目は「研ぎ講座」「伽藍（がらん）彫刻」「木挽き」「鉋（かんな）の裏出し」の実演のほか多彩な催しものが行われました。中でも鉋の「削り大会」では、髪の毛よりも薄い7～10ミクロン単位の削り華を記録する職人の技に見学者から驚嘆の声が上がっていました。



未来のサッカー選手をめざして

9月3日に小学校グランドとスポーツ広場を会場に今年で11回目を迎える「ライオンズカップ争奪与板少年サッカー大会」が開催されました。近隣の町や塩沢町、三条市などの12チームが集まり熱戦をくりひろげました。地元の与板ジュニアサッカー団、たちはばなF.C.も強豪チームと対戦し、大健闘をしました。与板ジュニアサッカー団は予選リーグを勝ち抜き決勝トーナメントに進みましたが惜しくもカップには手がとどきませんでした。大人さながらのプレーもあり大会は盛大のうちに幕を閉じました。

大会結果

- 優勝 寺泊少年サッカークラブ
- 2位 長岡サッカースポーツ少年団
- 3位 与板ジュニアサッカー団
- 見附Jリットボルクラブ



私たち、「お茶」しました！

9月28日、楽山亭・積翠庵において、中学校3年生の茶道体験学習が行なわれました。与板の歴史と文化を、話を聞いたり体験を通して伝承していくという気持ちを育て、茶道を通して礼儀や作法について学ぶことを目的として計画されたもので、時間を決めてクラス毎に歴史愛好会の小林繁雄さんから講義を聞いたり、与板石州会の皆さんの御点前によるお茶をいただきました。初めての「お茶」体験に生徒たちは緊張した面持ちでの課外授業でした。



親子でサッカー！楽しい一日

与板ジュニアサッカー団恒例となった「第13回親子サッカー大会」が9月17日にスポーツ広場で行なわれました。子供たちはもちろん、一緒に混じって参加しているお父さん、お母さんもここぞとばかりに大ハスル！疲れ？を考え1試合10～15分程度のゲームでいろいろな対戦カードがあり、親子楽しそうにボールを蹴っていました。午前中のイベント大会でしたが、参加者は楽しい秋の1日を過ごしたようです。



事故をおこさないでください！

9月21日（木）からの秋の全国交通安全運動の一貫として与板幼稚園の「チビッ子しどう隊」が出動しました。

制服姿の園児たちは、お巡りさんや交通安全協会の皆さんと一緒に「事故をおこさないでください。」「わきみ運転をしないでください。」と、元気に呼びかけました。



歴史に刻まれた峠を歩く

秋雨前線が通り過ぎる中、34回目の町民登山となりました。参加者全員で晴れを祈りつつ清水部落へと進み、一夜の宿につく頃には雨も小雨に変わり、我々を安心させた。

当日は、祈りが通じたせいか雨も上がり、目的の谷川連峰清水峠に出発。ぶな原生林を左右に見ながら急坂十五尾根、別名謙信尾根を汗だくになりながら登り、終えた頃には怪峰大源太山が見え隠れし山々の展望が楽しめる場所でしたが、今回はガスにつつまれ残念ながら見えません。しかし頂上付



近のクマ笹が青々と山一面を覆い、箱庭に入った気分になりました。

残念ながら天候が回復しないため食事を早く取り、全員で記念写真をとりながら下山となりました。一路与板へ。

うまみち森林公園 キャンプ場

オープン
10月1日



	単位	料金
管理料	1人	1泊2日 200円
		日帰り 100円
テント持ち込み料	1区画	1泊2日 1,000円

*各種キャンプ用品の貸し出しあります。ご利用ください。

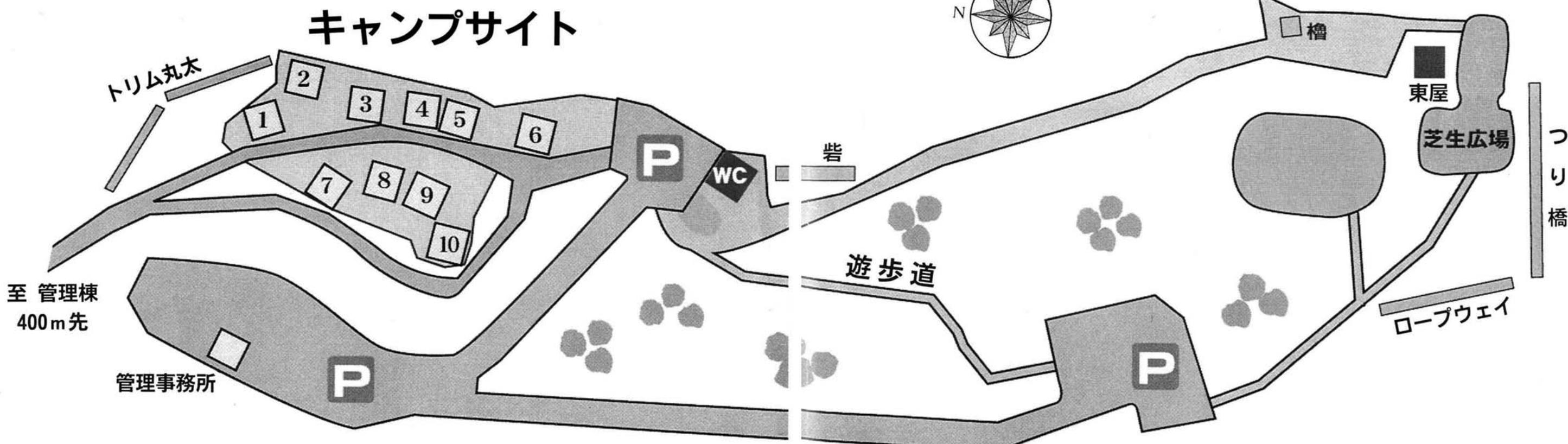


申込・問い合わせ先
与板町役場振興課
721-3100（内線112）

うまみち森林公園オートキャンプ場に引きつづき、このたびキャンプ場の整備が完了し、10月1日よりオープンいたしました。さらに利用しやすくなりましたキャンプ場で秋の楽しい一日を過ごされてみてはいかがでしょうか。

使用的手続き

- 使用希望の場合は、申請書を役場振興課へ提出して、許可を受けてください。
- 使用希望日の30日前から予約を受付けます。
- 毎週火曜日は休園となりますのでご注意ください。ただし、火曜日が祝祭日の場合は翌日とします。



与板町直江氏三代の拠点

No. 1

初代・直江大和守 景綱の時代

与板町と直江氏の関係

●文化財について

・与板城（山城） 上与板

新潟県文化財に指定される。

- 城の一本杉
- 直江兼続が米沢へ移住の際に田中覚兵衛が、杉五本を植えたが、枯れたり切ったりして現在は、一本のみ残っている。
- 与板町指定文化財にされる。



徳昌寺山門

直江氏の生い立ち

直江氏はどこから与板に来たのか？直江津から来たと言われる。

直江津時代は、回船問屋である「謙信伝」によれば、直江の一族が上杉軍団の海を司る水軍衆のようである。

与板にも定宿（出張所）等があり水運関係は直江家の勢力下にあつたと思われる。

与板町の直江氏の名残り

直江津では、回船問屋であったが、次第に勢力を広大して水軍の将となつたようである。

○直江氏の菩提所「徳昌寺」について
徳昌寺の開基について
直江氏の菩提所、香積山・徳昌寺の開基は、藏谷院・昌山一徳居



本与板城址全景

士という。文明十一（一四七九）年八月徳昌寺を創立する。昌山は、

直江兼続の曾祖父で、直江親綱の父である。

※一説によれば、戦国の武将は、自分の出身地を院号に用いたと言われる。

蔵谷院と言わわれているが、「くらだに」とも読めるので、与板の倉谷村かともうけ取れる。今後の研究にもちたい。

●徳昌寺の開山について

徳昌寺の開山は、耕陰道夫禪師

と云われており、文明十八（一四八六）八月二十一日死去している。

●倉谷村について

「越後野志」には直江の室はお倉の方と申し、文武両道に優れておられたと言う。

景綱公帰城のせつは、お茶を立てられたと言われる。故に倉谷村と言つうとある。

●本与板八幡宮の由来

奉斎の神像は、文明十年（一四五九）戌八月十五日、渋谷与喜太重久が、納めた画像と言わいいる。

直江氏関係史記

「上杉謙信伝」によれば、上杉軍団の水軍を海賊衆と言った。常時船頭八人、水子三百人を置き、海賊大将を直江新五郎・平尾

●南中の観音庵の由来

「佐藤家古文書」によれば、慶長の頃より南中と上城山を通じる道があつたと言われている。観音堂の観音菩薩像は、直江氏の念持仏と言われている。

佐藤家は、直江氏が米沢に移封のおり兄は米沢へ、弟の「佐藤新左衛門」は与板に残る。佐藤家は、代々里正（庄屋）を勤めて現在に至る。

●中之島の万福寺の由来

文明元年（一四六九）頃、万福寺は、三林に有り対岸（本与板）にしばし戦火があるので、直江氏の念持仏を三林に移したと言っている。本尊は、薬師如来像である。

（この時に、伊達より養子になるので一時伊達の家紋・竹に雀となり、上杉家の紋と伊達家の紋は、同じくなつたと言われている）定実は、最後には、法躰（仏門に入る）となつて、玄清と称した。天文十九年（一五五〇）二月二十六日没す。

天文二十二年（一五五三）、直江景綱は謙信の命により、室町幕府の被官・飯沼頼清を滅ぼして、その領地を受け継いだと言われる。

※渋谷氏は、直江軍団の有力の武士

が、次第に勢力を広大して水軍の將となつたようである。

一 次 号 へ づ く

